

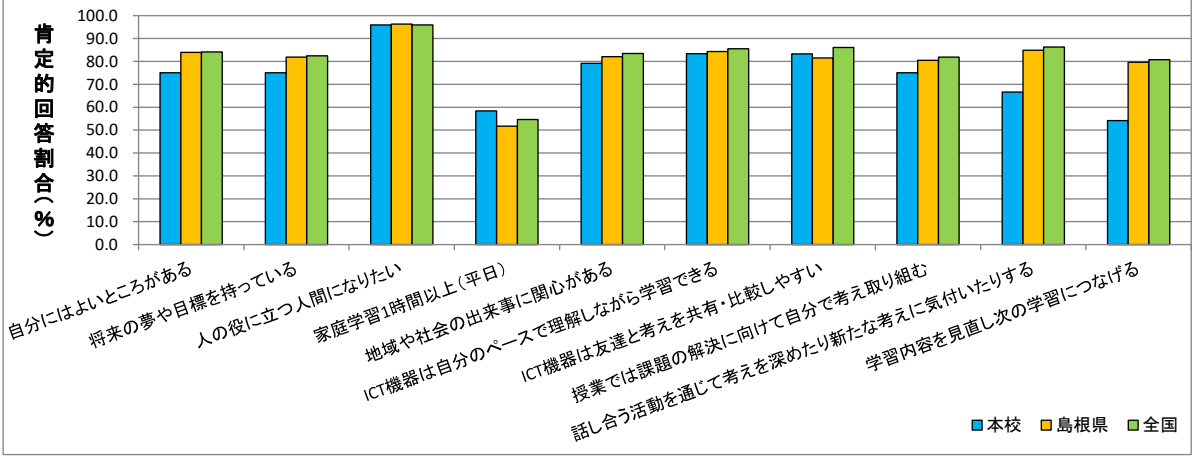
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○表現を工夫することができるかどうかをみる問題では17.9ポイント高い。伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題については、全国平均より7.3ポイント高い。 ●漢字(「競技」の書き)が全国平均と比べて35ポイントも低い。 ●正答率が高い児童の割合が低い。 ●漢字をきちんと覚えていない。	・無回答をしない習慣をつける。あらかじめ、自分の考えを答えていくように指導をする。 ・漢字の書き取り、読み等基礎的な問題に継続して取り組ませる。 ・条件作文のような形式の問題などを随時取り入れる。問題の読み取りにきちんと取り組ませ、回答を書く際には、回答に入れる言葉を集めるといった作業を意識するよう指導する。
算数	○速さ、道のり、時間に関する問題で、道のりとかかった時間から、速さを求めるといった、基本的な計算はできている。 ○短答式、記述式の問題にもまずまず対応できている。 ●速さが一定であることを基にして、道のりと時間の関係について考察することができていない。 ●正答率が高い児童の割合が低い。 ●全国平均よりも20ポイント以上低いのは、速さの問題である。20ポイント近く低いのは、球の直径から立方体の体積を求める問題である。これは無答率も高い。ドリルなどでもよく見る問題だと思われるが。もう一つは除数が小数の除法で除数と商の大きさの関係を見る問題。 ●特に、速さ・距離・時間の関係の理解度が低い。 ●図形問題の正答率が低い。	・実生活につなげて考えられるように、授業の中で問いかけていく。 ・自主的な学習を促すとともに、授業の中で算数が得意な児童の発表の場、活躍の場を増やしていく。 ・一人一人が根拠をもとに説明する習慣をつける。国語力を伸ばして、読書、スピーチ等語る習慣をつける。 ・問題の状況を理解できているかどうかを見るために、図を描かせて確認するなどの学習を取り入れる。

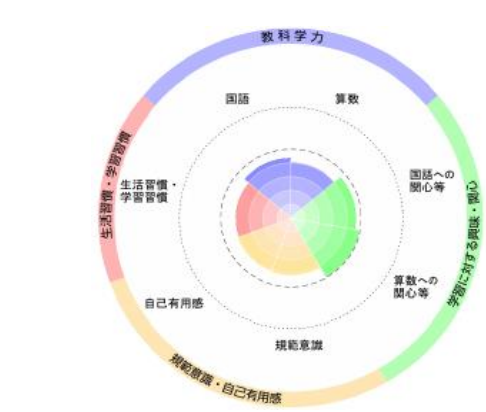
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○5年生までのタブレット等の使用は県平均よりも頻度がかなり高い。学校の授業時間以外にタブレット等を勉強のために使っている時間も多い。 ○学習系の習い事をしている児童が多い。 ●学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができている児童が少ない。 ●話し合い活動を通して自分の考えが深まった・新たな考えに気が付いたと認識している児童が少ない。(33より) ●根拠をもって他者へ考えを伝える経験が少ない。(29より) ●自分の考えを話したり、発表したりする機会での発表の工夫や新たな考えに気づくことが全国と比べて低い。	・話し合い活動を取り入れた授業に取り組むとともに、挙手をしない子どもの考えでも、良い考え方をしている児童のものを取り上げていく。 ・話し合い活動の後、自分の考えがどう変化したか、また考えが更に強固なものになったか等、話し合い活動を振り返る時間を持つと、話し合い活動の意義について自覚することができるのではないかと。(33) ・意見と併せてなぜそう考えるのか、明確な根拠も提示する習慣をつける。(29) ・相手に伝わりやすくするために、どのような工夫ができるか、自分だったらどんな工夫をされるとわかりやすいかなど、声がけをしていく。友達の考えを踏まえた考えの変化を振り返る時間を意図的に設定する。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・漢字ドリル、計算ドリルに継続的に取り組む。

【受検者数】
24 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。